空中回廊

AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART 愛知県美術館友の会 会報 MEMBERSHIP 第17号

バーミヤンの蘇生を願う

宮治 昭

2002年９月30日朝、カーブルを発った国連のプロペラ機がバーミヤン上空に到達し、懐かしい大摩崖の光景が私の目に飛び込んできた。24年ぶりの再会である。飛行機から降りて、州庁舎のある高台から、二大仏や多くの石窟が掘り込まれた雄大な摩崖を眺め、周囲ののどかな風景を見渡すと、時の流れが止まったかのように、かつてのバーミヤン渓谷の素晴らしい遺跡は何ひとつ変わっていないのではないか、という思いが湧いてきた。

しかし、大摩崖に近づいて大仏のあった巨大な仏龕（ぶつがん）の前に立った時、厳しい現実に直面させられた。東西の二大仏とも完全に破壊され、頭部も体軀（たいく）もすっかりその姿は消し去られてしまった。大仏のあった足下には、岩片がガレキの山となって堆積している。バーミヤンは高さ38メートルの東大仏と、55メートルの西大仏の存在によって有名であったが、実はそれらの大仏の仏龕には東西文化交流を物語る、極めて貴重な壁画が描かれていた。

東大仏の仏龕天井には四頭立ての有翼白馬に曳かれて天翔ける太陽神が大きく表され、西大仏の仏龕天井には来世の救世主たる弥勒菩薩が多くの菩薩や天人・天女に囲まれた、兜率天（とそつてん）の一大世界が描かれていたのだ。それらの壁画のわずかな断片でも残っていないかと、目を凝らして限なく眺め渡したが、厚い漆喰壁もろとも美しい壁画は悲しいかな、完全に剥落してしまっていた。

アフガニスタンは「文明の十字路」といわれるように、古代文化の遺跡の宝庫である。東をインド世界、西をイラン（ペルシア）世界、北を中央アジアや中国とも境を接する地理的状況と、アレクサンドロス大王の東方遠征以来のギリシア文化の移入や、その後の歴史状況によって、この地はユーラシア大陸の東西の様々な文化を吸収し、しかもそれらをたんに混在させるだけでなく、独自の仕方で融合させ、新しい文化を創り上げていった。仏教美術を通して、その影響は日本

西大仏の壁画《飛天》（破壊前）

にまで及んでいる。

1979年にソ連軍がアフガニスタンに侵攻し、以来10年にわたってジハード（聖戦）が繰り広げられ、さらにソ連軍の撤退後は、政権奪取の部族間の戦闘となって無政府状態に陥ってしまった。20年以上に及ぶ内乱によってアフガニスタンの国土は荒廃し、人々の生活は脅かされ、とりわけ精神的な不安をかかえる難民たちによってイスラム原理主義が支持され、アルカイダと結んだ過激派が生まれていった。

2001年3月13日、イスラム原理主義タリバンはバーミヤンの二大仏を完全に破壊してしまった。これは表向きは、「真の神は一人アッラーのみであり、それゆえ他のすべての神は取り除かれなければならない」（同年２月26日のオマル師の声明）からであったが、世界から孤立してしまったタリバンの自暴自棄としか思えない。バーミヤンのみならず、ハッダやテペ・サルダールなどの仏教遺跡、カーブル博物館に収められた多くの仏像も、こうしてみな破壊の対象となった。

カルザイ政権のもとで、地方ではまだ不安な状況が伝えられるが、アフガニスタンの復興もようやく軌道に乗りつつある。日本政府も援助を表明し、また一般の市民の間でも人道的な支援が様々な形でなされていることは喜ばしいことだ。古代遺跡の宝庫であるこの国の文化財の修復・保存に関しても、ユネスコや各国

が支援に動き出している。日本政府はバーミヤンの修復保存に対して、ユネスコに資金を信託することを決定した。

この決定を受けて、私は昨年９月末から10月初めにかけて、日本・ユネスコ合同調査団の一員として、バーミヤン遺跡の現状を調査し、その修復保存の具体策を提案する作業に加わったのであった。バーミヤンに入る前にカーブル博物館を訪れた。二階建ての建物の屋根は落ちて二階部分は全く使用できず、展示品は全くといっていいほど消失し、惨憺たるあり様であった。わずかに碑文類が残されたほかは、破壊後に館員たちによって集められた彫像の断片類が保管箱に収められていた。これらの断片となった出土品は、長くアフガニスタン考古学に携ったフランスやイタリアの研究者、修復技術家の支援のもとで、修復作業が開始されている。博物館の建物の修復はギリシアの援助によって進められつつあるが、遅々としてはかどっていない。

バーミヤン遺跡は破壊されてしまったとはいえ、その重要性に鑑み、最近ユネスコの世界遺産に登録された。私は若い日々、1969、74、76、78年と４度にわたって、計７ヶ月余バーミヤンに滞在し、その美術調査を行っただけに深い感慨がある。バーミヤン遺跡の美術史上の意義、東西文化交流史上の重要性については、昨年出版された拙著『バーミヤーン、遥かなり』（ＮＨＫブックス）をお読み頂ければ有難い。二大仏だけでなく、三体の坐仏や、他の多くの石窟群にも壁画や塑造装飾が施されていた。残念ながら、それらの壁画もかつての２～３割程度残るに過ぎないが、多彩な石窟群の興味深い構造は残されている。

今夏からいよいよ、ユネスコによるバーミヤン遺跡の修復作業が本格化する。大仏自体の復原については多くの問題があり、賛否を含め将来の課題として残されている。緊急の課題は、大仏の仏龕自体が崩壊の危機にさらされていることで、主にドイツのチームが崩壊しそうな大仏龕の岩を止める大事業に取りかかる。日本は東京文化財研究所が中心となり、散乱した壁画の収集と壁画のある石窟の封鎖の作業を担当する。おそらく４～５年はかかるであろう、こうした作業を私は見守りたい。と同時に、私が現地で作成した壁画の線図や写真資料をもとに、将来誰か実物大の模写を作成してくれる人たちが現れ、現地に復原できないものかと考えている。

破壊された西大仏の前に佇む宮治氏

筆者紹介

1954年　静岡県沼津市に生まれる

1968年　名古屋大学（美学美術史）卒業

1972年　名古屋大学大学院博士課程中退

インド、パキスタン、アフガニスタン、中国など仏教美術の調査を毎年のように行う。

1969,74,76,78年には、アフガニスタンのバーミヤンの調査を行う。

2002年９月～10月には、日本・ユネスコ合同調査隊の一員として、破壊されたバーミヤン遺跡の実情調査を行う。

現　在　名古屋大学大学院文学研究科教授。文学博士。

ただいま準備中…

「空海と高野山」展

開催期間　2003年10月10日（金）～11月24日（月・振）
友の会特別鑑賞会　10月16日（木）・20日（月）

愛知に高野山がやってくる！…といっても過言ではないでしょう。国宝21件（点数はより多い）、重要文化財100件近く、総数約145件というかつてない規模で、高野山の宝物だけによる初の展覧会が催されます。弘法大師空海の生きた時代から現在まで1200年、歴史の重みが伝わってくる展示品の数々は、その昔は限られた人にしか目にする事の出来なかったものばかり。また、高野山にお参りしてもそうそうお目にかかれるものでもありません。そんな貴重な作品を見る事ができるとは待ち遠しい反面、思わずお山が空っぽになってしまうのでは…と心配になってしまいます。

本展覧会は京都国立博物館、愛知県美術館、東京国立博物館、和歌山県立博物館を巡回。京博が中心となり、４館の学芸員が高野山に集まって作品調査を行い、図録の執筆を分担したそうです。担当の深山学芸員は「八大童子立像、特に制多伽童子は、日本彫刻史を専攻していた学生時代から大好きかつ憧れの仏像でした。いつかは愛知県美でも仏教美術展を…と思っていましたが、こんなに早くしかもこのような名品で実現できるとは夢のようです。ご来館の皆様に感動をお届けしたい。」とおっしゃっていました。意気込みが伝わってきますね。

標高1000mの高野山では、低温多湿の特殊な環境で名宝が永く守り伝えられてきました。美術品の保護の為、展示中もそれに近い環境を保たなければなりません。今回愛知県美術館で開催が可能になった要因の一つは空調が整っていることでした。通常、古美術品はガラスやアクリルのケース内に展示され、今回も絵画や書跡類は、総縦が５mを超えケースを作れない両界曼荼羅図（血曼荼羅）以外はケース越しの鑑賞となります。けれども彫刻については、転倒や盗難などの危険がある小品などのほかはできるだけケースなしで、照明も見やすく心がけられるとのこと。仏像の高貴な顔立ちや衣の襞の美しさなどをしっかり見ることができそうです。なお、国宝の仏涅槃図や阿弥陀聖衆来迎図をはじめ、作品によっては前後期で入れ替えられるということなので、これは２度行かなければなりませんね。　（伊奈・平松）

二十代半ばの弘法大師自筆の《聾瞽指帰》には、奇跡を見るかのように心が震えます。そして大師の開かれた高野山には、密教美術の粋はもちろんのこと、この霊場にひかれるように集まった他の宗派や仏教美術以外の優品も驚くほどあります。ただいま（６月）展示プランを練っていますが、普段の企画展示室に加え所蔵品展の一室まで使います。京都会場よりも少しお経の出品が減る代わりに、彫刻が増える予定です。

（愛知県美術館主任学芸員　深山孝彰）

《阿弥陀聖衆来迎図》

■「壁外のひとこと」　今回は、編集スタッフお勧めの美術館ボランティア関連書籍・資料をご紹介します。全て、愛知芸術文化センター アートライブラリーに所蔵されています。是非お読み下さい。

愛知県美術館　素顔の扉を開く

第五の扉　「教育普及」小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会

愛知県美術館では、平成14年度から各企画展毎に教育普及事業のひとつとして「小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会」を開催しています。前年までは「先生方への説明会」として、企画展の宣伝を目的とした普及事業を行なっていました。「説明会」では、友の会の皆さんが参加する特別鑑賞会のように担当学芸員がスライド等を使って説明し、あとは各自で展覧会を見て児童・生徒に少しでも宣伝してもらおうという意図から行なっていました。これを何年か続けたのですが、残念なことに、美術や図工の先生が中心であっても、多くは一般のお客さんと大差なく、先生が自ら楽しむ時間以上の深まりが得られませんでした。一方、熱意のある先生からは、「鑑賞学習につながる具体的な話が聞きたかった」というような声もあり、また、学習指導要領の改定に伴って、美術館の利用が言われるようになったことからも、「先生方への説明会」の改善に手をつける必要に迫られたのです。

「学習指導要領」の内容をみなさんはご存知でしょうか。この方針の転換は子どもたちの教育に大きな変化をもたらします。少しその改定の内容を見てみましょう。平成14年度から実施された指導要領では、基本的な視点として「完全学校週５日制の下で、各学校が〈ゆとり〉の中で〈特色ある教育〉を展開し、子どもたちに学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることはもとより、自ら学び考える力などの〈生きる力〉をはぐくむ」ことが掲げられ、さらに図画工作・美術科においては特に「児童や学校の実態に応じて、地域の美術館等を利用すること」あるいは「地域や学校の実態に応じて、地域の文化財、文化施設、社会教育施設等の活用を図ったり、地域の人材の協力を求めたりすること」が謳われました。

これを受けて移行期の昨年度から、学校団体の来館が増えてきています。愛知県美術館としては、それまで行なってきた「先生方への説明会」を見直し、参加者と美術館側とのコミュニケーションを図れる場として、また、参加者同士の情報交換の場でもあるように

学習交流会のようす

「小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会」と改めたのでした。

これまでに行なった内容では、愛知県美術館が子供向けに提供している印刷物に対しての意見をもらったり、愛知県美術館を利用した先生から、事前授業や事後授業の指導についての報告をしてもらい、それに対する質疑応答を行なったり、あるいは愛知県美術館が行なった教育普及事業を紹介してそれに対する意見交換などをしています。もちろん、企画展の紹介と鑑賞の時間も残していますが、それによって即効的に児童生徒を引率してきてもらうことに結びつくとは考えていません。美術館への理解者を増やし、美術館見学を利用した指導についての意欲を喚起し、その結果として美術館を気軽に利用してもらえるように意識改革をしていけたらと考えています。子どもたちにとって、美術館の体験というのは、ただ見たというだけでなく、事前指導や事後指導が計画的になされることによって、より豊かになります。子供時代に美術館を体験していない人が大人になって美術館のファンになることはきわめて希だといわれます。とすると、多くの子どもたちにとって学校から出かける美術館の体験がとても大切になることはお分かりでしょう。

次代を担う子どもたちへ広がる活動としての「小・中・高の先生方との鑑賞学習交流会」は、単に美術館からの一方的な説明ではなく、美術館と参加者そして参加者同士の相互交流によってその意図が発揮される普及活動といえます。

（愛知県美術館主任学芸員　高橋秀治）

■『がんばれ美術館ボランティア』鳴崎吉信・清水直子（編著）淡交社／「美術が好き」から「美術館を応援したい」へ。美術館とボランティアは、いっしょに何ができるのか、両者のより良い関係を探っています。

会員のたより

ヒットマンとよばれたプロレスラー　三井 隆弘

キュビスムの巨匠ジョルジュ・ブラックは Art is a wound turned to light と言ったらしい。訳すと、芸術とはやがて光となる心の傷である、とでもなろうか。苦しまないと何も生まれてこない、ということだろう。彼の自伝や芸術関係の本で知ったことばでない。ブレット・ハートというプロレスラーの引退宣言に書かれてあった引用である。彼のニックネームはヒットマン。ご存知の方もいると思われるが、カナダ出身のヒットマンは業界最大手WWF（現WWE）世界チャンピオン等、数々のタイトルを獲得した90年代を代表するプロレスラーである。筆者はプロレス観戦歴25年以上（ちなみに美術鑑賞歴は７年）であるが、彼にはあまり興味がなかった。日本でさしたる実績がなかったこと、ショー的要素の強いアメリカンプロレスを軽蔑していたからである。しかし、たまたま、彼のドキュメンタリー映画『Wrestling with Shadows』を見て、「現役のころもっと見ておくべきであった」と後悔している。

映画のあらすじを述べる。父親がプロレスラーで12人兄弟の男８人がプロレスラーに女４人がプロレスラーと結婚したレスリング一家に生まれた彼は小学生のころから、同級生に「親父はfake（インチキ）」と呼ばれ、何度もけんかしたらしい。家族のプライドを守るため、上級生が相手でも絶対負けられないと思ったそうだ。70年代後半に父親の団体でデビューした。185cm、110kgとそう大きくないが、卓越した技術を磨き、92年に初めて業界の頂点である世界チャンピオンとなる。

ヒットマンことブレット・ハート氏
《Slam Wrestling》のHPより引用

順調にサクセスストーリーを歩んでいたが、90年代半ば以降、ライバル団体との興業戦争に勝ち抜くため、オーナーはさらにショーアップし、エロティック路線を敷く。そのころから、クラシックな善玉・悪玉という路線が受け入れられなくなり、典型的な善玉である彼は自分のスタイルに悩む。会社は、カナダ人である彼にアメリカ人を罵倒する役をやらせる。子供からお年寄りまで安心して楽しめるプロレスを目指していた彼は、そのような団体の方針とあわず、結局は会社をはなれることになる。14年間働いた団体を去る最後の試合前、オーナーと試合の打ち合わせをする。「反則負け（タイトルの移動はなし）にして、タイトルはその後に返上する」というものだった。しかし、それは仕掛けられた罠だった。ことの一部始終は「モントリオール事件」としてプロレス史に残っている。

ジョルジュ・ブラック《FOX》1911年
『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクションより』展
©Photo:SPACE Tokyo

ヒットマン自身、世間からは偏見の目で見られがちなプロレスを芸術の域まで高めようと苦悩した。それが、プロレス一家に育った彼のいちばんのこだわりだったのだろう。プロレスを「格闘技」なんて掲げるから「八百長」になるのであって、「ショー」と最初から断れば、芸術とは言わないまでも、立派な芸能だ。大観衆を魅了するショーには鍛えられた肉体と洗練された技術が不可欠であることはいうまでもないが。

この映画はカナダの小さな映画会社の作品であるが、カナダとイギリスの映画祭においてドキュメンタリー部門で作品賞を受賞している。

■『私も美術館でボランティア』淡交社美術企画部(編) 淡交社 ／日本の美術館ボランティアの状況をまとめたもので、その活動内容や成果、あるいは今後の課題などを紹介しています。

美術館のページ

愛知県美術館新職員 紹介

あいさつにかえて

館長　市川 政憲

市川館長

長谷川三郎m館長の後を受けて、愛知県美術館長をつとめさせていただくことになって、3か月がたちました。この3月までは、30年あまり、東京国立近代美術館につとめてまいりました。国立美術館が独立行政法人に移行し、近代美術館がリニューアルして2年を経過したところで、前館を去ることを決めたわけですが、組織の体制が変わり、建物も改まったところで、職員の意識も随分と変わったように私には思えました。私自身も、美術館の内側にいる自分と、一市民である観客の側に立つ自分とが、はっきりと現れてきて、美術館というものが立つ風景が変わってきたことを知りました。

毎日のように展示場に足を運ぶようになって、すなわち美術館の内側にいる自分と外側にいる自分と二つの自分を、始終行き来することで、その間にひとつの見えざる壁、境界というものを意識するようになりました。そして、この内と外との境界が、人間的な感触をもちえるならば、市民にとっての美術館というものが、少しは身近な存在として見えてくるのではないかと考えるようになりました。

そうした意識、あるいは風景の変化の過程で、いつしか「国民」ということばに代って「市民」ということばが、ある感触をもって私の意識の前面に出てきたことが、名古屋に参った大きな要因ではなかったかと自分では思っています。

現下の経済情勢に翻弄される美術館に着任して3か月、早いというよりは、ずいぶんと沢山のことを体験したように感じています。美術館をとりまく環境は大変厳しいものがあります。その一因は、個人の市民意識の成熟に対して社会の制度的対応の遅れにあるように思いますが、そうであるなら、そうした市民の方々の眼差しに育まれた美術館が、その社会的意義を新たにするのではないか、そんな希望も生まれてきます。近代美術館には、友の会がなかったため、美術館と連携しつつ自主運営されるこちらのような友の会に触れて、確かな力を得たようにうれしく思いました。ギヴ・アンド・テイクというよりは、相互に見守り続ける、大人の関係を感じました。私もこの関係のなかに、一市民として語り、館長として聞くスタンスで加わらせていただきたく思います。

はじめまして

学芸員　馬渕 美帆

馬渕学芸員

私は、4月から愛知県美術館美術課の学芸員として勤務させていただいています。その前は、大学の美術史学研究室の助手をしていました。美術館で働くようになって3か月になりますが、同じく美術作品に関わる場所であっても、大学の研究室とは仕事の内容はまったく異なり、毎日が新しいことの連続です。

愛知県美術館で働き始めて何より実感したことは、当たり前のことではありますが、美術館が美術作品を管理し、展示する、まさに現場であるということです。私はこれまで美術館活動の受け手の側におりましたが、初めて美術館の内側に入ってみて、いかに多くの人の多くの作業があって美術館活動が成り立っているのかということを強く感じます。愛知県美術館の場合、友の会の活動が特に盛んで、作品の寄贈までもされていることに驚きました。今後も美術館活動の受け手としての視点を変わらず持ちつつ、よい作り手となれるように励みたいと思います。

お二人の原稿は2003年6月に寄稿いただきました。（編）

友の会活動紹介

平成15年度前半に行った、友の会の主な事業を紹介します。

■ロビーコンサート

大勢の人が日本の唄と朗読を楽しんだ

■特別鑑賞会

初の試みとして託児付きで行った

■総会

友の会からの作品寄贈に対して愛知県より感謝状を宮崎会長が受けた

表紙の作品は、運慶作国宝 八大童子立像の一つ《制多伽童子》(鎌倉時代12世紀 像高96.1cm)。今秋開催される「空海と高野山」展に展示される予定。

事務局から

特別鑑賞会と託児付き特別鑑賞会

愛知県美術館友の会では、会員対象に各企画展ごとに昼と夕方それぞれ1回ずつ特別鑑賞会を開催しています。これは愛知県美術館友の会の活動の中でも他に誇れる特徴的なものです。鑑賞会では当該企画展を担当された学芸員からスライドなどを見ながら解説を聞いたり、閉館後や休館日の一般鑑賞者がいない時間帯に、展示室において作品を前にして話を聞いたり質問したりできる、魅力的なひとときです。なお、今年は美術館のご協力により試行ではありますが託児付き特別鑑賞会（昼の部のみ）を計画しています。この託児付き特別鑑賞会には、会員以外にも一日だけですがお試し会員（会費1,200円）として参加できます。ご家族やお知り合いの方にご紹介いただき、この機会を是非ご利用ください。詳しくは事務局までお問い合せください。

編集スタッフから

「ただいま準備中…」からこぼれ話を。この展覧会、京都会場では優待券をもっているにもかかわらず券を買って入場する人もいたそうです。学芸員の間では、ご利益をかっているのでは？という噂がまことしやかに流れているとか。皆さんもぜひお越し下さい。ご利益がありますように！　（伊奈）

今回は、「バーミヤンの蘇生を願う」を宮治さんに、「会員のたより」を三井さんに寄稿して頂きました。また「空海と高野山」展について深山主任学芸員にお伺いし、「教育普及」を高橋主任学芸員に、「美術館のページ」を市川館長と馬渕学芸員に寄稿していただきました。ご協力ありがとうございました。

編　集　水野 愛子／真野 良子／森 健次
伊奈 由希子／湯田 文／平松 章子／折戸 祥子
協　力　愛知県美術館企画普及課

発　行　2003年9月
愛知県美術館友の会
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
愛知芸術文化センター内
Tel 052-971-5511（代表）内線347
Fax 052-971-5604
E-mail:tomonokai@aac.pref.aichi.jp
美術館ホームページ：
http://www-art.aac.pref.aichi.jp/

デザイン／レイアウト　小島 篤／桑原 房子